

宿縁

五月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗
本願寺派
中原寺
TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

念仏者の

生活態度を問う



宿縁紙上に新型コロナウイルス感染のこ
とを2月号から連続して載せていますが、残
念ながらその脅威は五月に向かっても増大
しています。くれぐれも皆様には気を付けて
お過ごしください。
政府はついに非常事態を宣言し、感染防止
に「三蜜(さんみつ)」を守り不要不急でなけ
れば外出しないよう自粛を要請しています。
三蜜とは「密集」、「密閉」、「密接」のことで、
「人が多く集まる場所」、「狭い場所」、「人
と密着をしないように」ということです。

今や、生活・経済・学校等すべてにおい
て暗闇に覆われ、内外共にストレスが蔓延
してきています。こんな時だからこそ少し
でも明るい方へ明るい方へ心に向けていき
たいものですね。

この前ある人との会話で『「三蜜」でなく
「壇蜜(だんみつ)」ならいいけどね!』と冗
談気味に言ったものです。

「壇蜜さん」はセクシーな女優・タレン
トさんと黒髪と妖艶な雰囲気で見目されて
いる人ですよね。でもその名前が仏教語に
関連しているのはご存じですか。

「壇蜜」とは檀波羅蜜(だんはらみつ)のこ
とで、六波羅蜜(ろっぽらみつ)の一つです。

「檀」はサンスクリットの「ダーナ」の音
写で「檀那(だんな)」ともいい、布施つまり
無償で与える施しということ。波羅
蜜「は迷いの世界である此岸から悟りの彼
岸に到達すること。そのための修行の一つ
に挙げられているのがこの施しです。ちな
みにあとの五つの修行は持戒(じがい)〓生
き物を殺さず、盗みをしなない、淫らな行為
をしなない、嘘をつかない、酒を飲まない等
を守ることに。忍辱(にんにく)〓憎しみ、怒り
を抱かず、それらに耐え忍ぶこと。精進(し
ようじん)〓怠らず、正しい努力をする。禅
定(ぜんじょう)〓常に落ち着いた心を持つ。
智慧(ちえ)〓この世の真理を見極め、正しい
心をもってこれらを実践することです。

成程、「壇蜜さん」は無償で世の男性に美
の施しをされているのでしよう。ただしそれ
を受け取る男性諸氏が最も修行の妨げにな
る「欲望」の虜になってはいないでし
ょうか?

さて、恐ろしいコロナウイルスに感染しな
いための約束事「三蜜(さんみつ)」も意味こ
そ違いますが仏教語にある言葉です。

三蜜とは密教(仏教の流派の一つ。深遠で、
凡夫にうかがいえない秘密の教え)の用語で
す。衆生と仏とは本来同一であるから、衆生
の身に印を結び(身密)、口に真言を称え(口
密)、心に本尊を観じる(意密)とき、それがそ
のまま仏の三蜜(身・口・意のはたらき)と相
応して仏の加護を受け、仏と同一になる、そ
こに不思議な力が現れ、即身成仏を得るとい
われるのが密教の教えです。

親鸞聖人の教えを分かり易く記し、誰もが
人生の道しるべと仰ぐ仏教書「歎異抄(たん
にしよう)」の第十五章には、この三蜜につ
いて問題を提起しています。

その問題とは、人間がこの肉身のまま究
極の悟りを開き仏となる道(即身成仏)と、人
間はこの世にある限り身(からだ)・口(こと
ば)・意(こころ)の起(こ)す汚れ(煩惱)から完全
に開放されることができないから、そのよう
な人間ゆえにとことん憐れみと悲しみをか
け、必ず迷いと苦から脱却して仏にすると願
いを成就された阿弥陀仏の本願のはたらき
を信じて、浄土に往生し成仏する道(往生成
仏)がある。真実浄土の教えは、阿弥陀仏の
力(はたらき)によって浄土に生まれて仏と
なるのであり、間違っってはならないとの親鸞
聖人の教えを記されています。

『あらゆる煩惱をそなえた身でありながら、
この世でさとりを開くということについ
て。』

このことは、もつてのほかのことです。

この身のままこの世で仏となるというの
は真言密教の根本の教えであり、三蜜の行
を修めて得られさとります。また心身のす
べてが清らかになるというのは法華一乗
の教えであり、四安樂の行を修めて得られ
る功德です。これらはすべて能力のすぐれ
た人が修める難行の道であり、観念を成就
して得られるさとりの道です。これに対し
て、次の世でさとりを開くというのが他力
浄土門の教えであり、信心が定まったとき
に間違いなく与えられる本願のはたらき
なのです。これは、能力の劣った人に開か
れた易行の道であり、善人も悪人もわけへ
だてなく救われていく道です。：(意訳)

と始まる言葉が第十五章の問題提起です。

『仏教は私には難しく苦勞しましたが、
聴聞してきたおかげでやっと悪い根性も改
まり、さとりを開くことができました。』と
いう人がおりますが、如何なものでしょう?
たしかに善悪をわきまえて自分が進歩し
たように思うときがあります。しかしそうし
た状態は決して長くは続きません。環境が変
化し想定外の事態になれば、途端にわれ可愛
やで、都合よく善悪を使い分けるのではな
いでしょうか。

信心を得るとは完成者になるのではあり
ません。自らの不完全なことを自覚して、も
とより、より以上謙虚な心で仏法を求めてゆ
くようになるのが、真実信心得たる念仏者の
生活態度であることと教えられます。

*** 今月のことば ***

【誰とも違う、大切なひとり】

きょうの天気はどうだい。雨が降っていたら、昼休みに外で遊ばなくてガツカリかな？運動が苦手な人は、ほっとしている？図書室に行くから、天気なんて関係ない人もいるかもね。

一つのできごとを百人が見た時、きつと百通りの見方ができるだろう。同じ景色を見て、同じ本を読んでも、同じ話を聞いても、みんな違うことを思うだろう。まったく同じ思いなんて、あるはずがない。

それはとてもおもしろいことだけれど、同時にとてもさびしい。もしかしたら僕たちには、お互い心の底から分かり合うことなんて、できないのかもしれない。誰とも違う思いから、この世でたったひとりの君ができていく。君のまわりの人も、みんな世界にひとりだけ。みんな寂しさを抱えている。

だからこそ、お互いに敬いあいながら支え合いながら生きていかなければいけないんじゃないかな。

(たけもと たかし)
「仏教こども新聞より」

伝言板

【お家の方へ】

本当の意味で「守る」とは？

車道を横切るおじいさんと孫がいました。おじいさんは自らの体を、孫を守る盾のようにしています。この姿をみなさんはどう思うでしょうか？

孫に対する祖父の思いを感じるでしょうか。しかしこの二人が横切っているのは車道なのです。もう少し行けば、横断歩道があり、安全に渡れる場所があります。これは大変危うい行いです。

おじいさんの行為を、孫が当たり前だと思つたら、どうでしょう。孫は、守つてくれるおじいさんがいない時も、平気で、車道を横切り続けるでしょう。

本当の意味で「守る」とは、どのような行いを指すのでしょうか。いつも近くでかばう事だけではありません。そもそもそばにいたとしても、とっさのことに対応できない時だってあります。だからこそ、自発的にルールを守るように言い含め、自ら実践することこそが、「正しく守っていくこと」ではないでしょうか。

目に見える存在として、一緒にいることができなくなっても、正しい姿は残り続けていきます。それは、より良く生きていくための教えとして、働き続けてくれるでしょう。

(たけもと たかし)
「仏教こども新聞」より

【寺灯雑記】

○当面お寺での諸行事を休止

新型コロナウイルスの感染が拡大し続けているのに伴い、感染防止のため二月の「教行信証を学ぶ」をはじめ三月の「婦人会法座」「子育てサロン」「宿縁廟並びに彼岸会法要」四月の「花まつり」「壮年会・婦人会合同法座」「常例法座」等のお寺での諸行事はすべて休止といたしました。

誠に淋しく残念なことになりましたが、今後の見通しが未だつかない状況から五月以降の行事も当面すべて休止させていただきます。

皆さまのご家庭でもお仕事や学校の通勤、通学や買い物等に多大の影響が出てきていると思いますが、くれぐれもご無理なさらぬようお大切にお過ごしください

尚、お困りのことやご相談等いつでもお電話いただきましたたく存じます。

こういう非常事態の時こそ、お念仏の教えをよりどころとして、お互い心通じ合わせて共に乗り切つてゆきたいと思えます。

また、皆さまのご意見やアイデアなどもお聞かせいただければうれしく思います。

○お寺の現在の風景

今、お寺の境内では赤・白のつつじや白い卯の花、黒ろうばい、キク科のデイジー、エビネ、おだまきなどの花が咲き、そして垣根のカナメモチが燃えるような真っ赤な葉になつてとてもきれいです。

本堂前の紅しだれ桜は今年も見事に咲いてくれましたが現在は若葉に変わってきて

います。玄関前の梅の木には小さな実が付き始めました。裏山では今年もタケノコが掘れてにぎやかです。季節は若葉から青葉へと自然界の変わらぬ営みを見せてくれています。

さらには休止していた浄土園で畑作業が始まり、きゅうり、なす、枝豆、菊芋、おくら、さやえんどう、いんげん、いちご、など苗を植え付け収穫が楽しみです。

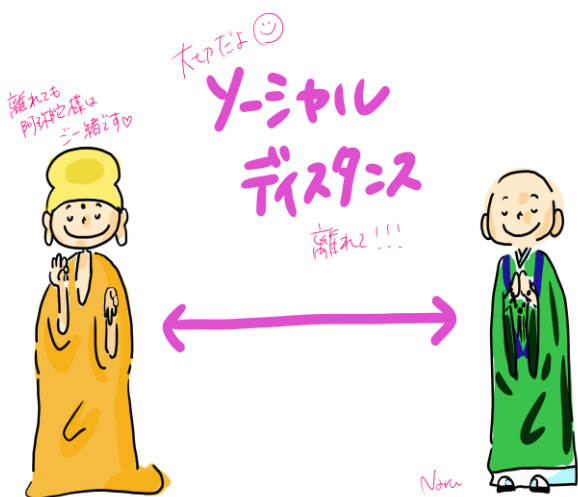
○寄進「石灯籠と蹲」

阿藤敏雄様

聞法会館ロビーの庭に灯籠を本堂前参道脇に蹲を設置させていただきました。眺める景色に一段と癒されます。

【五月の掲示板のことば】

ひとりの身勝手さが 社会を乱し
ひとりの慎みが 社会を救う



* 今月のイラストは築地 法重寺の若坊守さんが描かれたものです。